

負け犬と女の幸せ

世の中には、相手を完膚なきまでに打ちのめすことができる、「それを言っちゃあおしまいよ」的な罵倒のフレーズが存在します。

たとえば女子高生がサラリーマンに、

「オヤジは黙ってる」

と言ったとしたら、彼は黙るしかない。また容姿に自信の無い女性は、

「ブスのくせに」

と言われると、ナメクジに塩状態になってしまう（ただし、本当にブスであってもなぜか容姿に自信のある人には、この言葉は全く効かないのですが）。

それらは実にレベルの低い、年齢や容姿を非難するだけの単純な言葉です。が、単純であるからこそ、力は強い。たとえば「オヤジ」や「ブス」であつても、それ以外の部分に「個性」や「努力」や「才能」を信じて一生懸命に生きていく人の足跡、「オヤジ」

と同じように、三十代以上の未婚女性を簡単に「殺す」ことができるフレーズが、存

在します。たとえばどれほど美人で頭が良くてセンスが良くてお金持ちで仕事ができても、こう言われたら言い返すことができないであろうそのフレーズとは、

「あなたは、女として幸せではない」というもの。

思い起してみれば私も、二十代の頃にはよく言っていたのです。三十代女性がそこにいて、その人が結婚していなかったり不倫の噂があつたりすると、

「でもさああの人が、なーんか女として幸せじゃない感じがするよねー」と陰で囁いて、残酷な悦びを感じていた。

私は、たとえ全ての面で自分が彼女に負けていようとも、陰で「女として幸せじゃない感じがするよねー」とさえ言えば、彼女より優位に立つことができると思つていました。実際に彼女が女として幸せかどうかなど知らずとも、負け惜しみ半分、そして「私は若いので、自分より歳をとつた女性を哀れむ権利を持っているのだ」という、嫌アーな優越感半分で、年上の未婚女性を「女として不幸」と断定していた。

「女として幸せではない」状態とは、